資料3-(1)-2

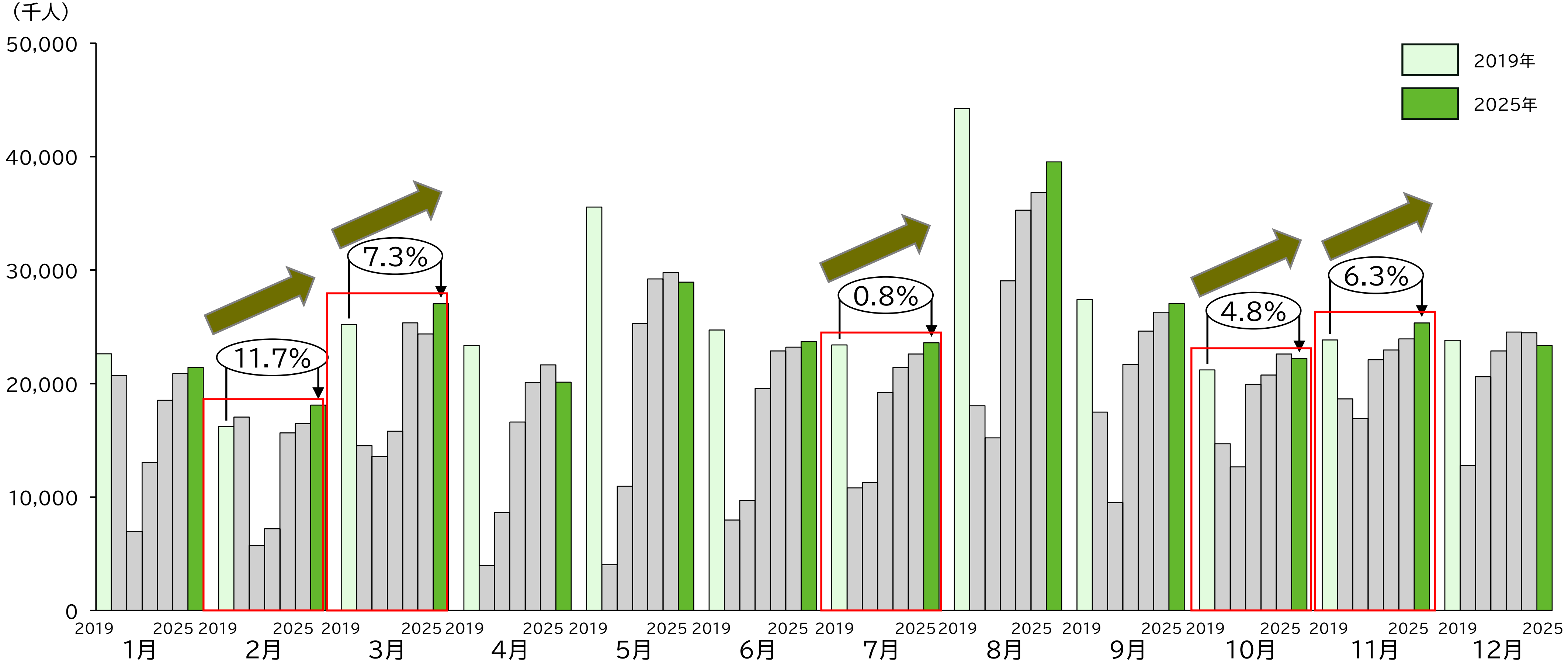
目標・指標設定に関わる国内外の旅行動向

・日本の国内旅行に関する動向や意向
・国際的な観光及び訪日旅行に関する最新情報を含む動向や意向等
・協議会関係機関において策定されている国内外の観光指針等

国内旅行動向　国内延べ旅行者数　宿泊旅行

- 2025年の宿泊旅行における国内延べ旅行者数は、3億46万人となり、2019年に対し96.4%の旅行者数まで回復してきている。
- GWや夏休みのピークシーズンの旅行者数は回復が遅れているが、2月・3月・7月・10月・11月では2019年の旅行者数を上回っている。

月別の推移



(注)2019年～2024年は確報値、2025年は速報値を基に作成。

年間の推移

年間の延べ旅行者数

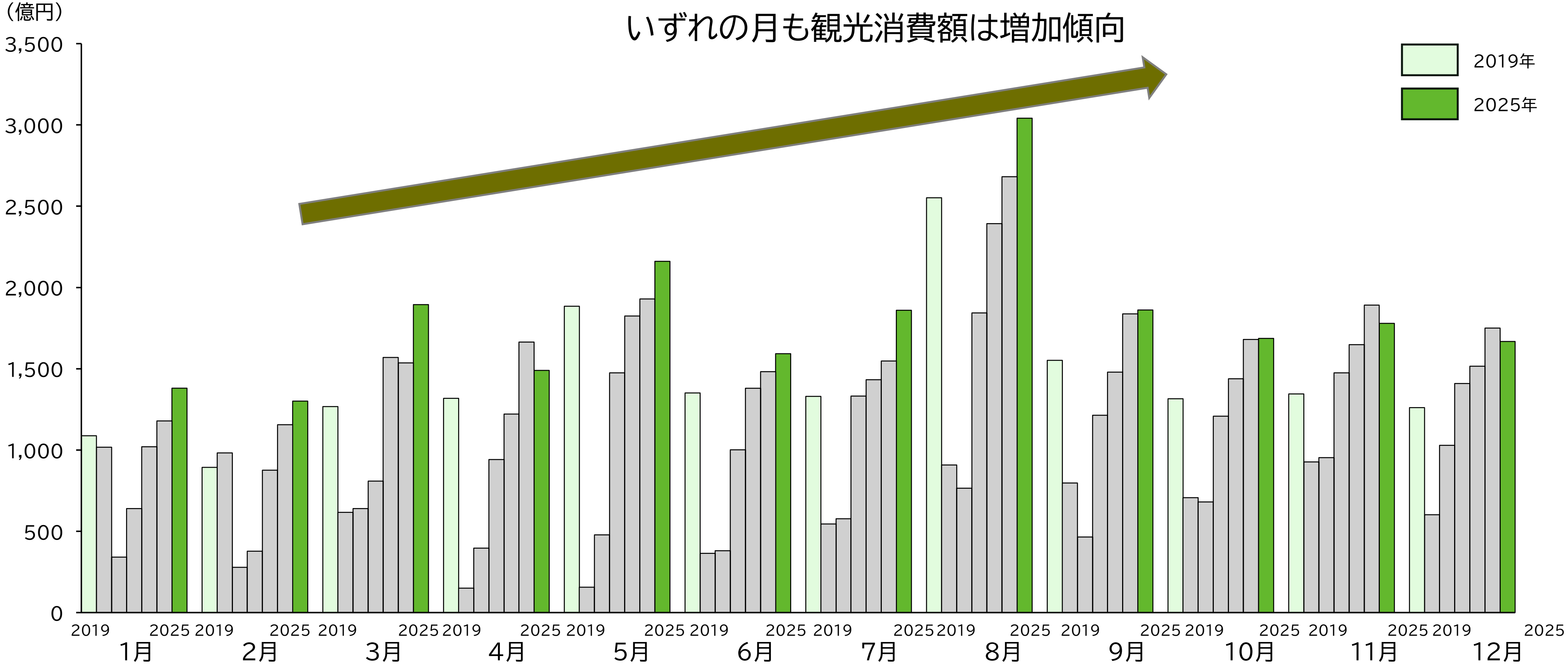
	人数	2019年比
2019年	3億1,162万人	ー
2024年	2億9,314万人	94.1%
2025年	3億46万人	96.4%

資料：観光庁「観光・旅行消費動向調査」より作成

国内旅行動向　観光消費額の推移　宿泊旅行

- 2025年の宿泊旅行における観光消費額は、21兆7,153億円と過去最高を記録している。2024年時点で2019年の水準を上回っていたが、2025年は前年度比+26.6%とさらなる成長が進んでいる。
- いずれの月においても、2019年の同じ月の観光消費額を上回っている。

月別の推移



（注）2019年～2024年は確報値、2025年は速報値を基に作成。

年間の推移

年間の観光消費額

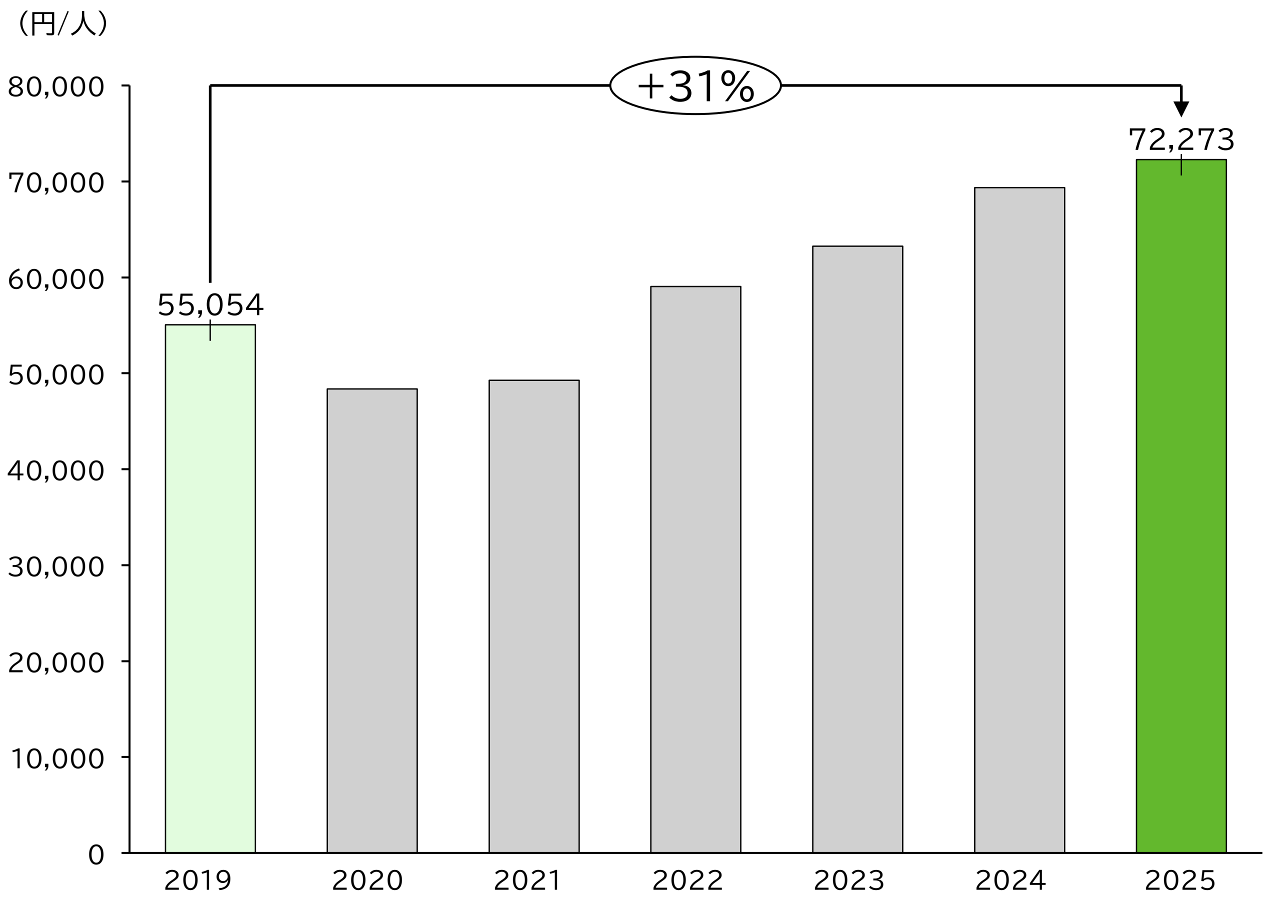
	億円	2019年比
2019年	17兆1,560億円	ー
2024年	20兆3,325億円	118.5%
2025年	21兆7,153億円	126.6%

資料：観光庁「観光・旅行消費動向調査」より作成

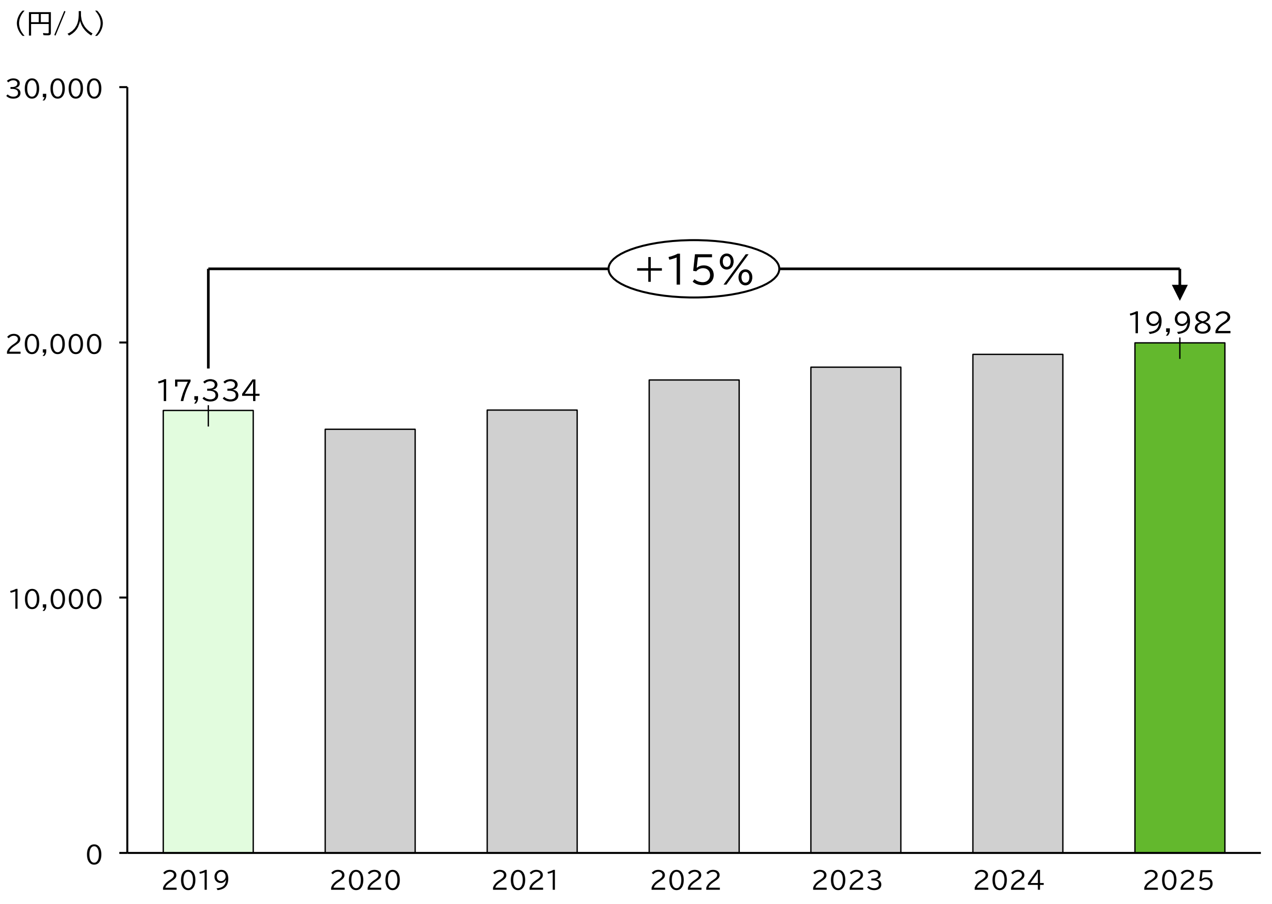
国内旅行動向　単価の推移　宿泊旅行

- 宿泊旅行における2025年の観光消費額は72,273円と、2019年比＋31.3%と増加している。
- 日帰り旅行における2025年の観光消費額は19,982円と、2019年比＋15.2%と増加している。

宿泊旅行における消費額の推移



日帰り旅行における消費額の推移

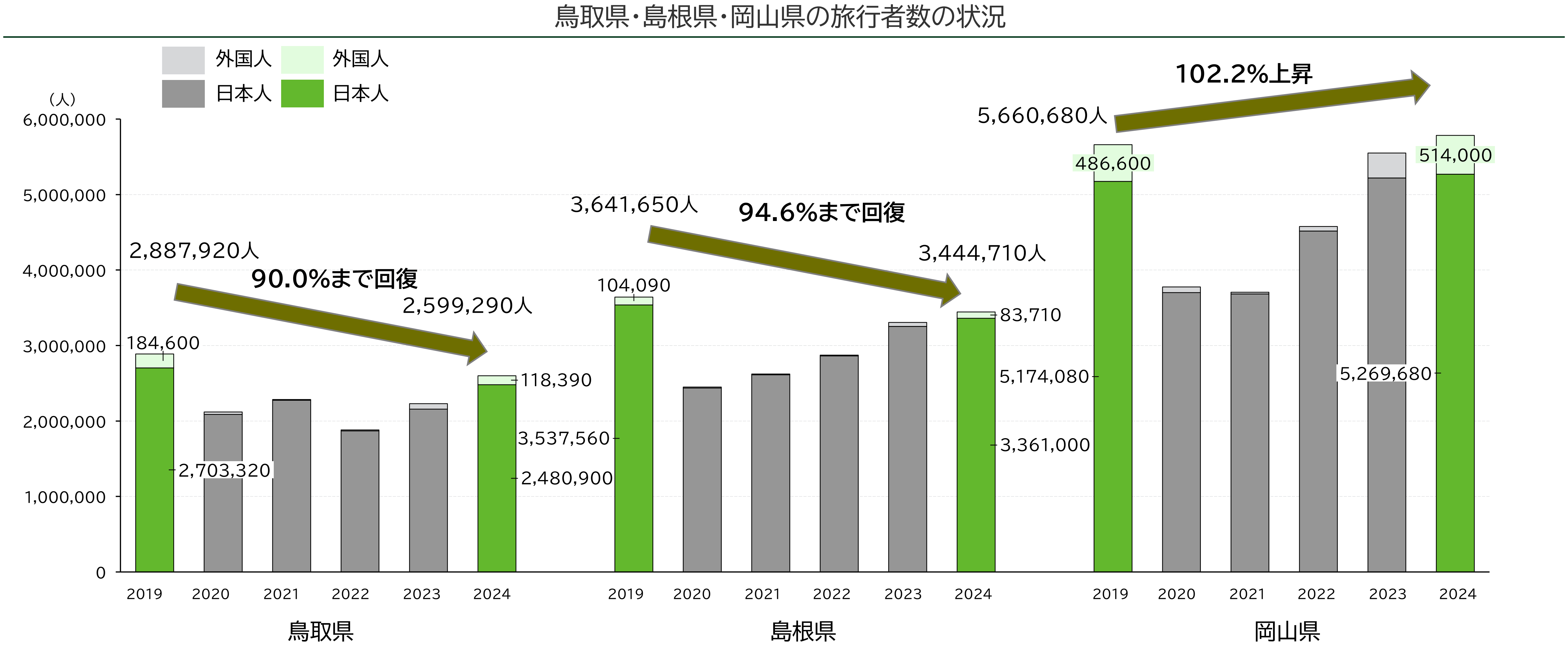


（注）2019年～2024年は確報値、2025年は速報値を基に作成。

資料：観光庁「観光・旅行消費動向調査」より作成

国内旅行動向　鳥取県・島根県・岡山県の旅行者数の状況

- 都道府県別の国内動向をみると、岡山県は回復が早く、2019年の旅行者数を外国人、日本人ともに上回っている。
- 一方で、鳥取県、島根県の旅行者数は、2019年の水準に戻っていないが、年々回復してきている。



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

直近1年間の旅行先の動向【鳥取県・島根県・岡山県】

- 直近1年間で旅行をした方の居住地構成をみると、人口の多い「南関東」の33.5%、「近畿」の17.5%、「九州・沖縄」の11.3%の順である。
- 近畿エリアに住んでいる方の旅行先は、鳥取県が28.9%、島根県が24.4%、岡山県が32.1%であり、全体の比率よりも高い割合を占める。また、中国エリアに住んでいる方も同様に鳥取県、島根県、岡山県に旅行する割合が高いことから、近隣エリアからの訪問割合が高いと言える。

居住地 ＼ 旅行先	北海道	北東北	南東北	北関東	南関東	甲信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	サンプル数
		青森県 岩手県 秋田県	宮城県 山形県 福島県	茨城県 栃木県 群馬県	埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県	新潟県 山梨県 長野県	富山県 石川県 福井県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 高知県	徳島県 香川県 愛媛県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県	
2024年	3.9	2.4	3.5	4.2	33.5	3.3	2.4	11.5	17.5	4.3	2.1	11.3	(9,972)
鳥取県(2024年)	2.1	2.6	1.0	2.7	23.0	1.5	4.5	9.4	28.9	14.4	2.4	[illegible]	[illegible]
島根県(2024年)	1.0	0.8	3.8	3.7	23.1	3.6	3.4	11.1	24.4	12.2	3.4	[illegible]	[illegible]
岡山県(2024年)	2.8	1.9	1.5	2.7	21.5	3.1	1.1	7.3	32.1	13.4	4.3	8.1	(147)

近畿・中国地方に居住の方の割合が高い

【全体調査】調査対象: 全国16～79歳の男女(調査会社のパネルより抽出) 標本の大きさ: 各回50,000人 ※国勢調査時の人口(地域・性別・年代)に基づき、調査会社のモニターを割り当て
【トリップ調査】調査対象: 全国16～79歳の男女で、期間中に観光・レクリエーション旅行を実施した人(調査会社のパネルより抽出) 、調査の対象とした旅行期間: 2024年1～12月

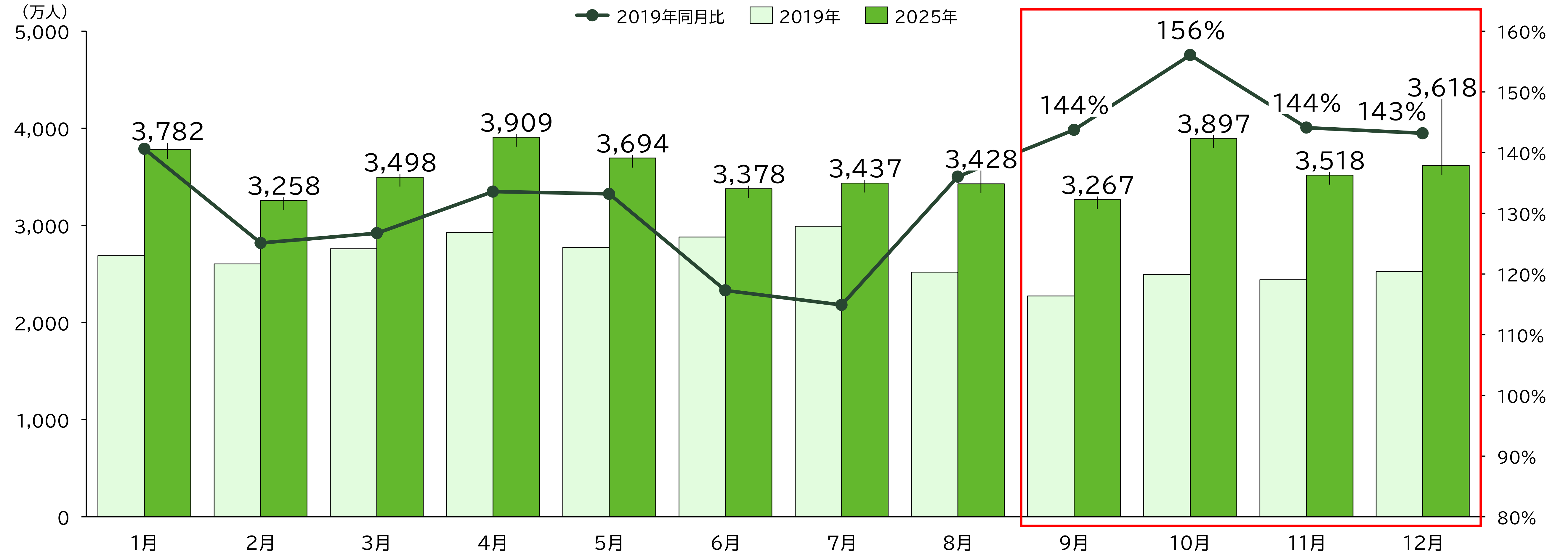
(注)1回の旅行につき、複数の旅行先(都道府県)を選択したデータを含む。表中の数値は表示単位未満で四捨五入して表示している。
全体の比率より10ポイント以上高い　全体の比率より5ポイント以上高い

資料:日本交通公社「旅行年報2025」より作成

2019年及び2025年における訪日外客数の季節別推移

- 2025年の訪日外客数は、4,268万人と過去最高を記録し、どの季節も2019年同月比を超えている。特に、9月～12月にかけて2019年同月比が140%を超えているが、10月の紅葉シーズンや欧米豪・中東を中心に訪日需要が高まる時期であることや、東アジアでは連休に合わせた訪日需要が見られ、訪日外客数が押し上げられている。

2019年及び2025年における訪日外客数の季節別推移



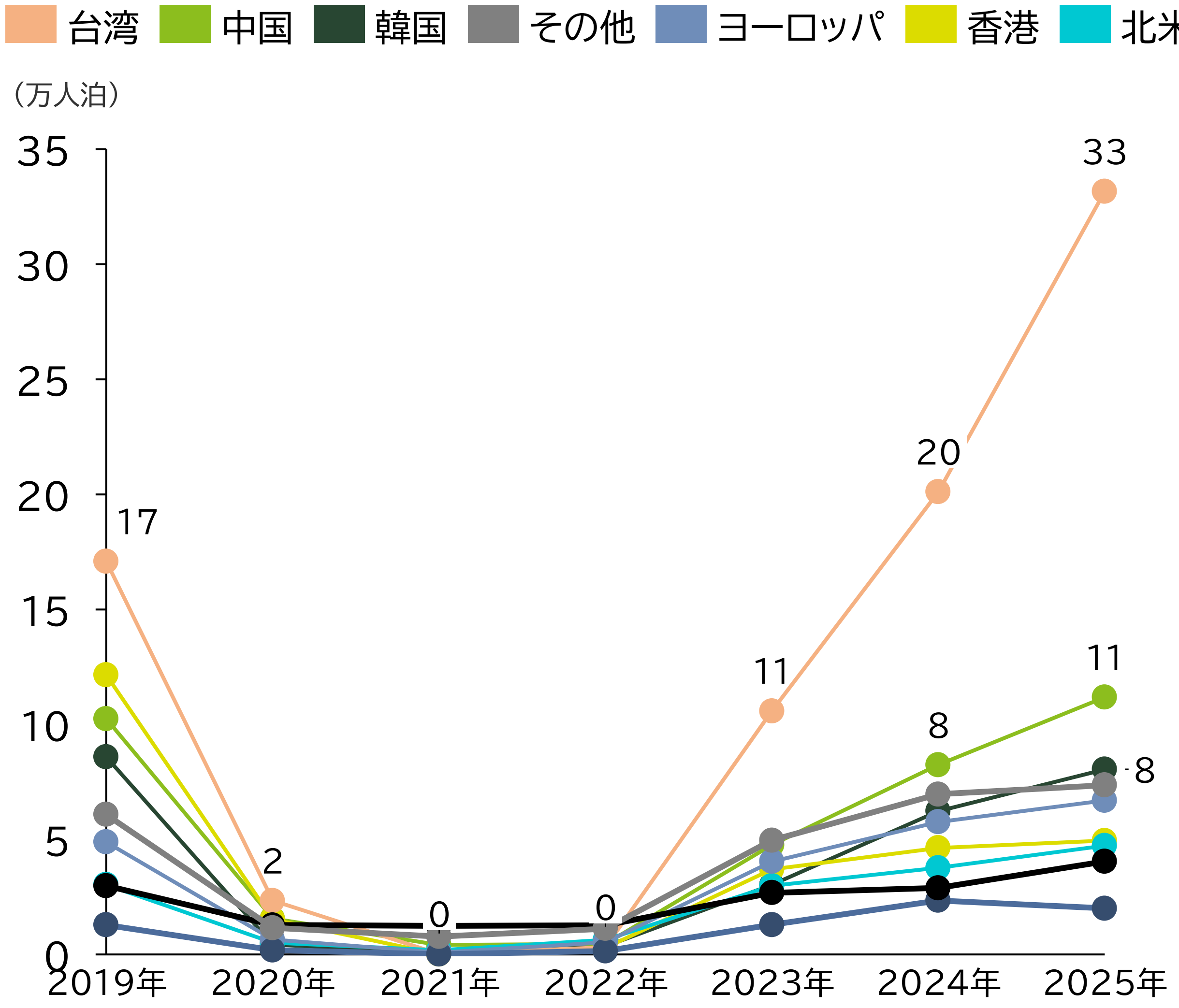
（注）2019年と2025年1月～10月は確定値、2025年11月-12月は速報値を基に作成。

資料：日本政府観光局「訪日外客統計」および各月の報道発表資料より作成

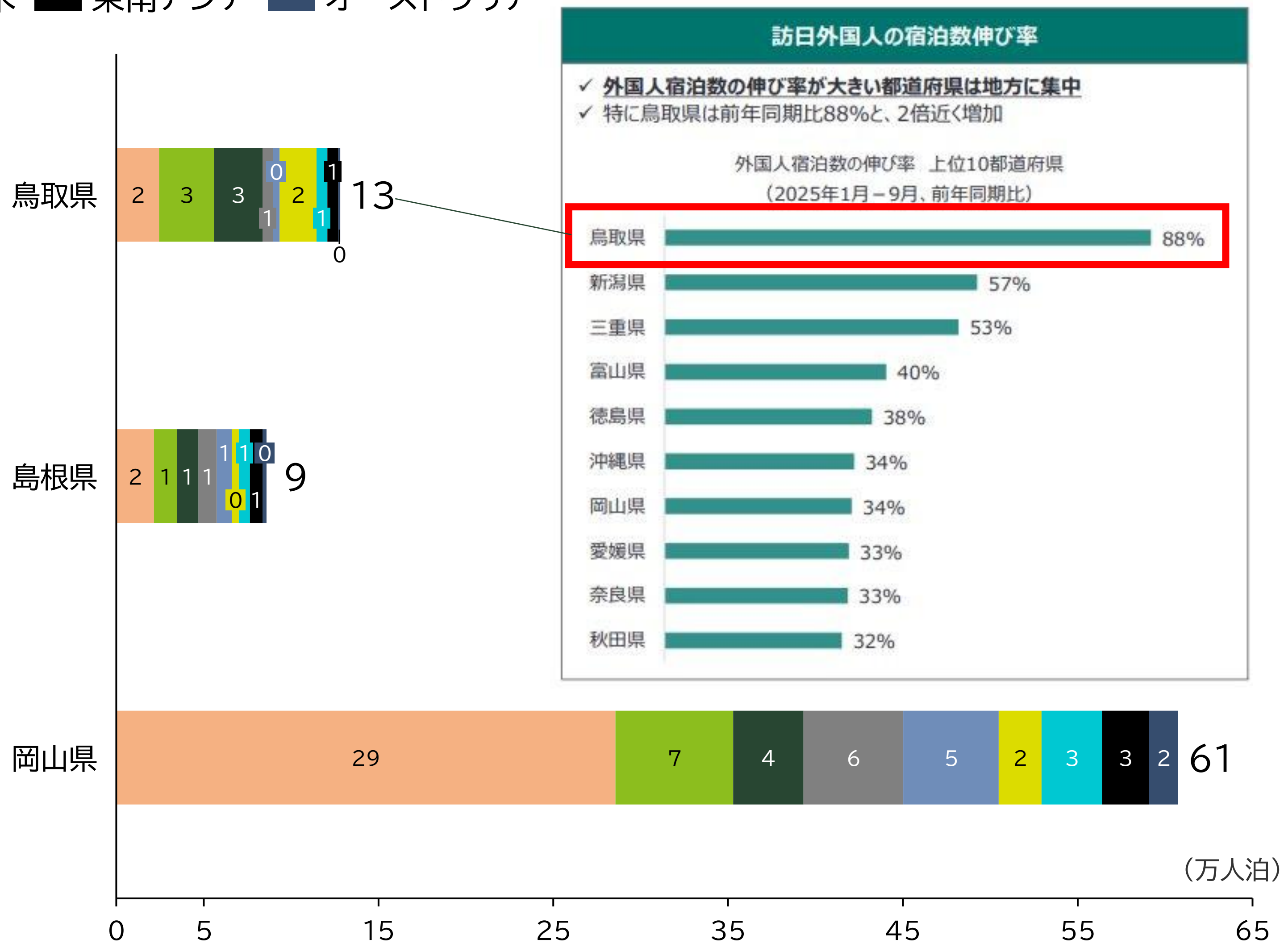
鳥取県・島根県・岡山県におけるインバウンド動向

- 2019年以降のインバウンドにおける宿泊日数の動向について、台湾からの来訪者数が2025年は約33.2万人泊であり、圧倒的に回復してきている。県別にみると、岡山県が最もインバウンドからの宿泊日数が高く、60.7万人泊であった。

インバウンドの宿泊日数動向（鳥取県・島根県・岡山県合計）



2025年のインバウンドの宿泊日数動向（県別）

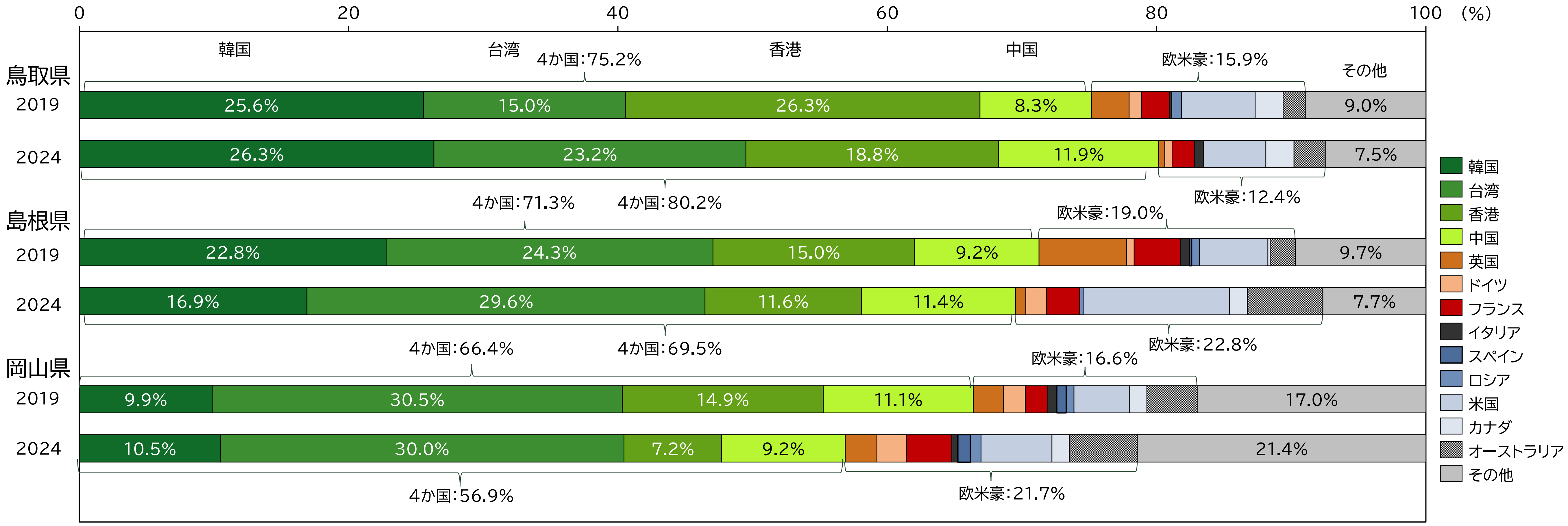


資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」の第2次速報より作成

鳥取県・島根県・岡山県に来訪する国籍の割合

- 各県ともに2019年、2024年と変わらず韓国、台湾、香港、中国からの訪問客が多い。特に2024年の鳥取県、島根県では台湾からの訪問客が2019年に比べて伸びている。一方で、岡山県では欧米豪の割合が2019年対比で5．1ポイント上昇しているのが特徴的である。

鳥取県・島根県・岡山県に来訪する国籍の割合

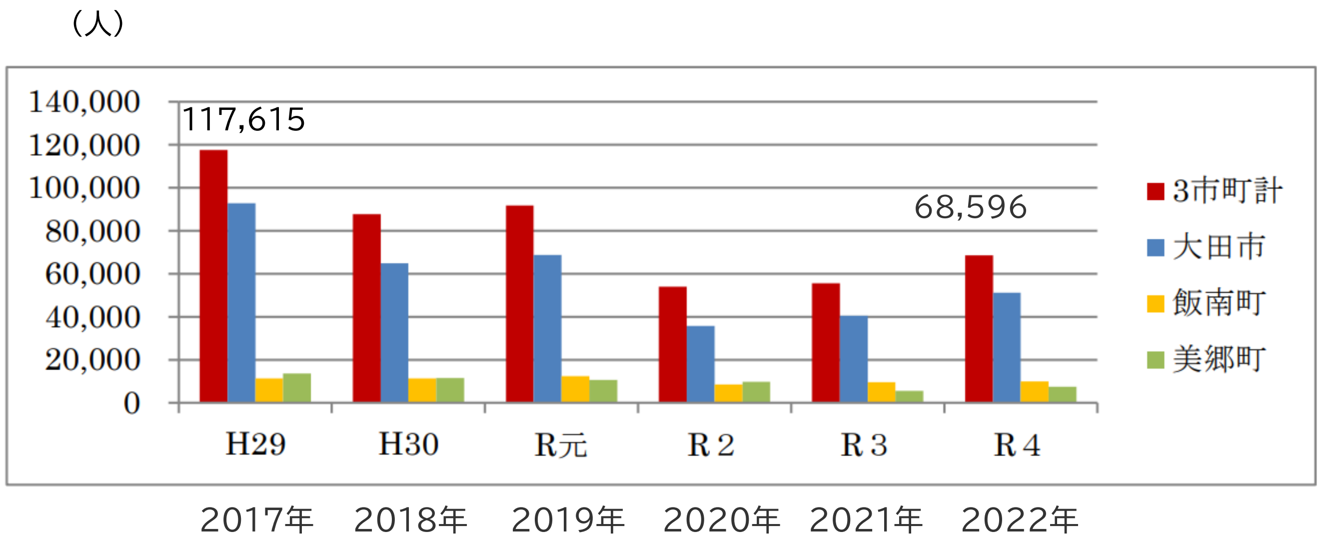


資料：観光庁「インバウンド消費動向調査」より作成

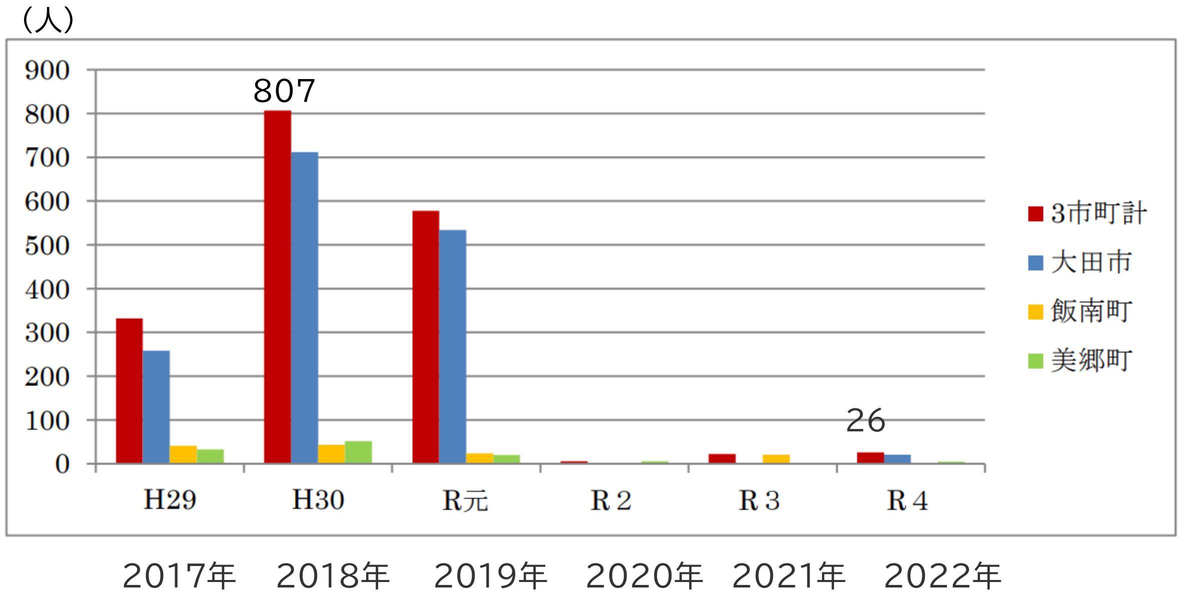
【三瓶山地域】エリア別の観光客の動向

- 三瓶山地域における大田市(三瓶地域)、飯南町、美郷町の宿泊者数は、コロナ禍の影響により大きく減少し、令和4年現在では68,596人であり、コロナ禍前の2017年の水準までには回復していない。
- 一方で、外国人宿泊者数をみると、コロナ禍前の平成30年の807人をピークに、現在では26人となり外国人宿泊者数の回復が遅れている。

大田市(三瓶地域)、飯南町、美郷町の宿泊者数推移



大田市(三瓶エリア)、飯南町、美郷町の外国人宿泊者数推移

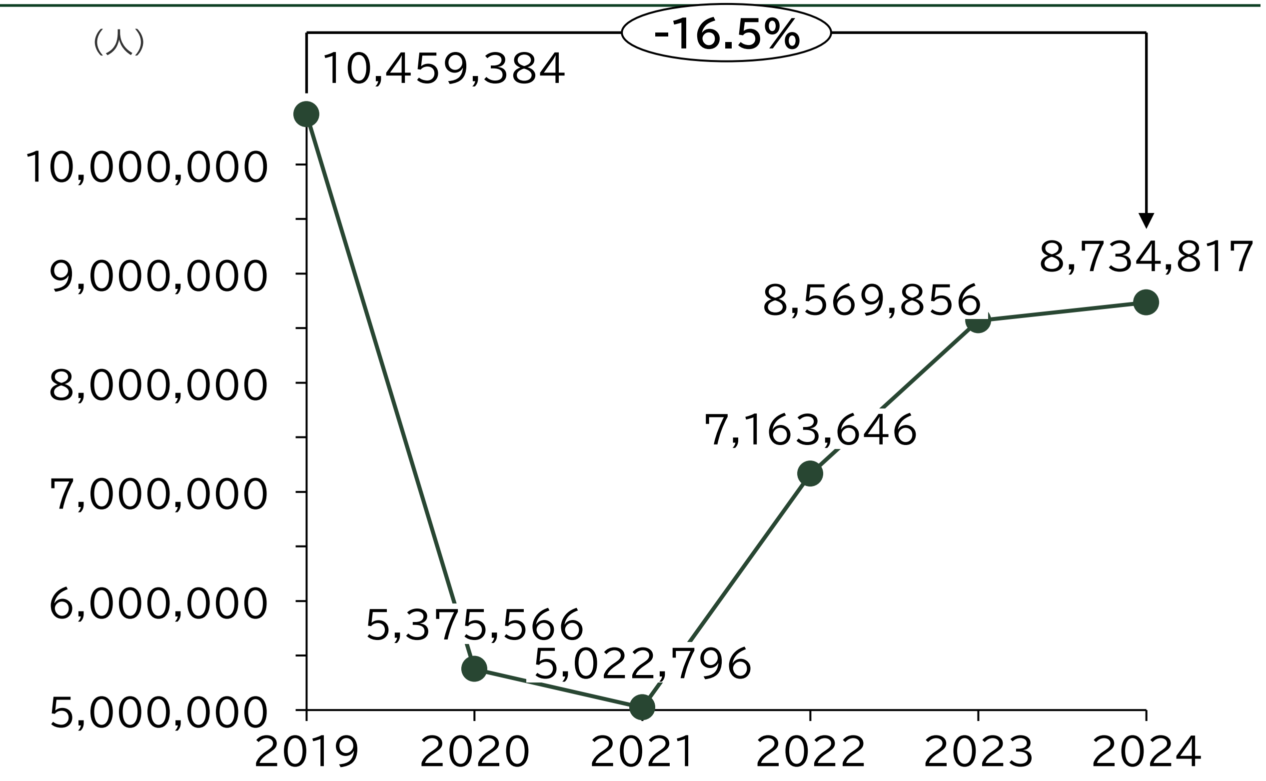


資料:三瓶エリア観光計画 第 3 期(令和 5~7 年度版)より作成

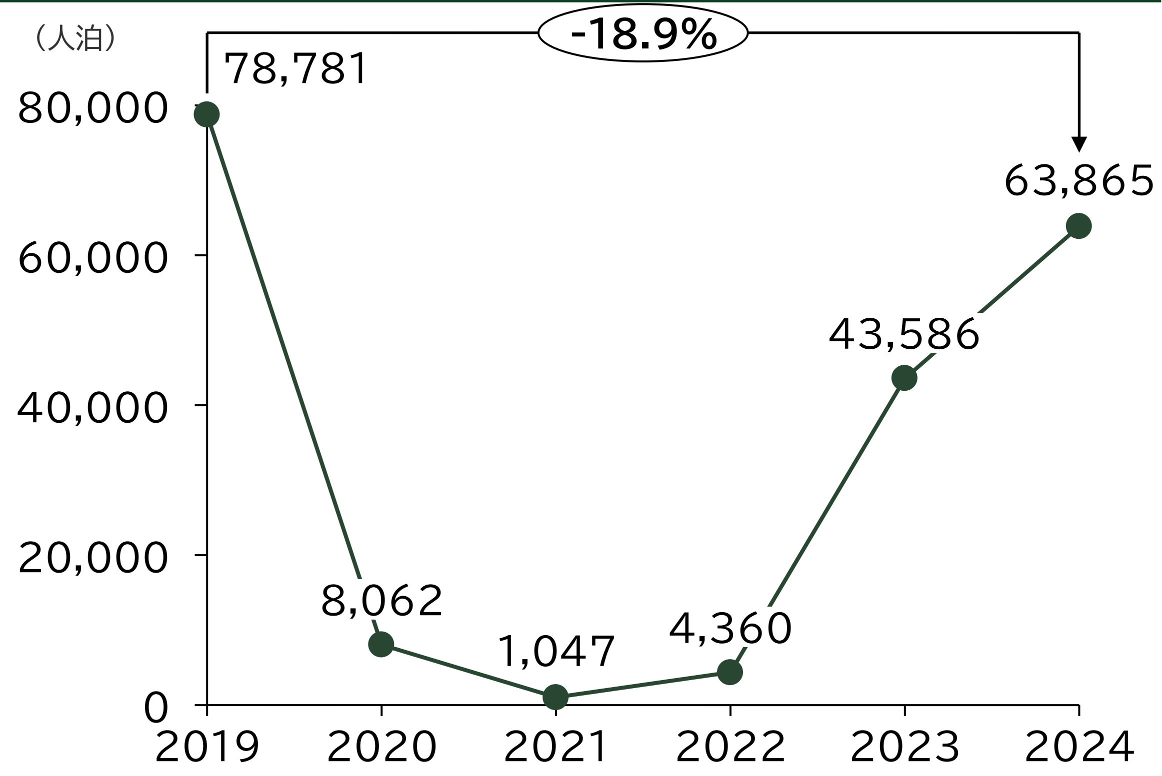
【松江市】エリア別の観光客の動向

- 松江市エリアの2024年の観光入込客数では、コロナ禍前の2019年の水準には戻っておらず、16.5%減である。
- 松江市エリアの2024年の外国人宿泊客延べ数では、コロナ禍前の2019年の水準には戻っておらず、18.9%減である。

観光入込客数の推移（観光入込客数全体）



外国人宿泊客延べ数の推移

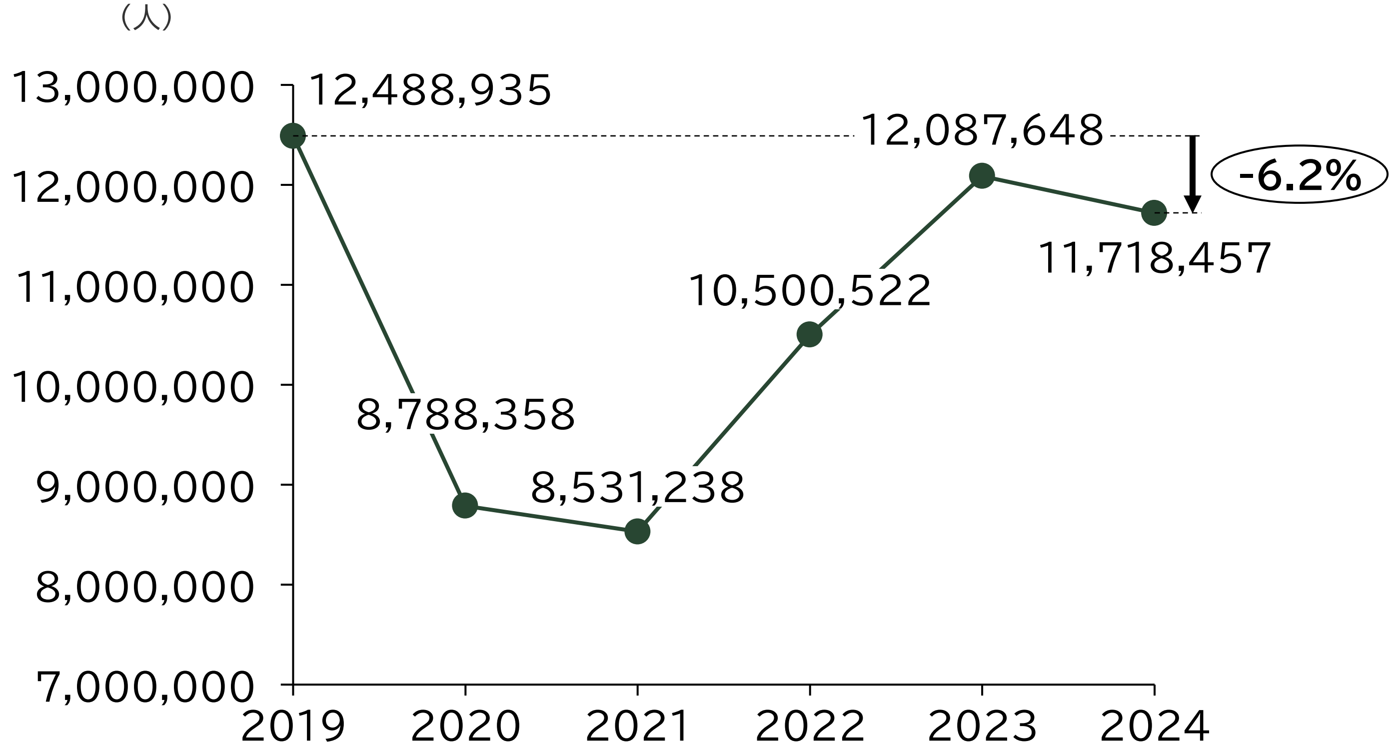


資料：松江市観光動態調査（令和元年～令和6年度）より作成

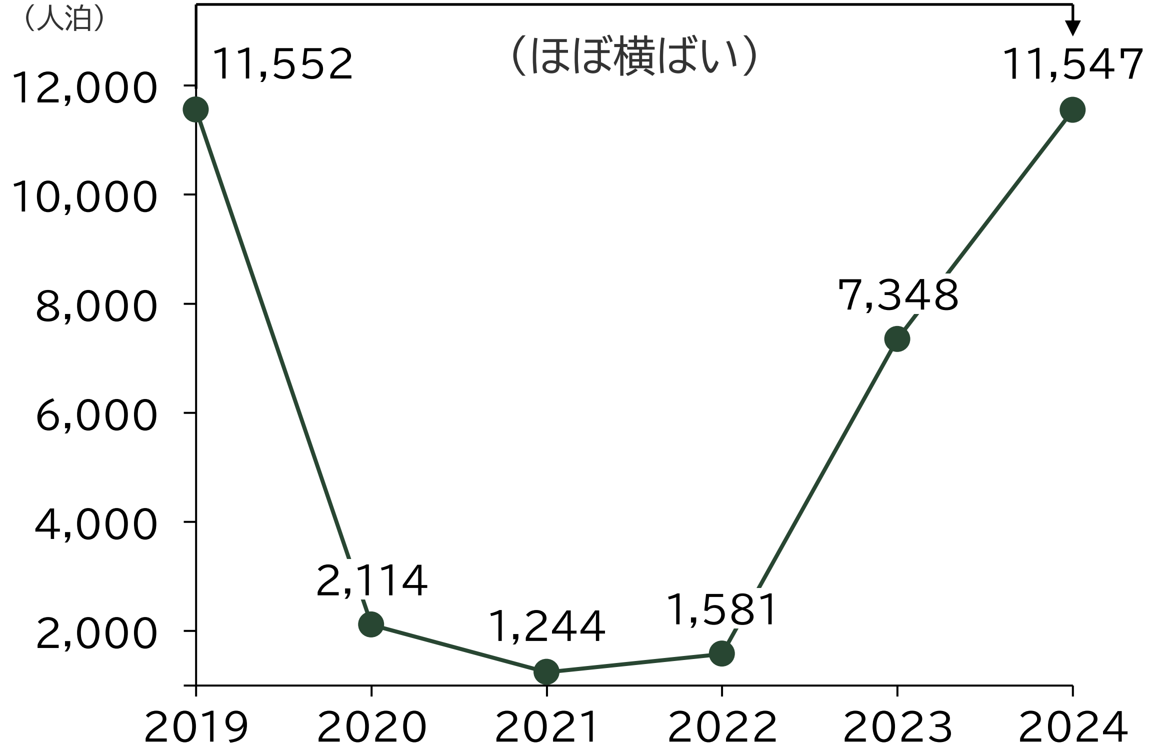
【出雲市】エリア別の観光客の動向

- 出雲市エリアの2024年の観光入込客数では、コロナ禍前の2019年の水準には戻っておらず、6.2%減である。
- 出雲市エリアの2024年の外国人宿泊客延べ数では、コロナ禍前の2019年の水準とほぼ同等である。

観光入込客数の推移（観光入込客数全体）



外国人宿泊客延べ数の推移

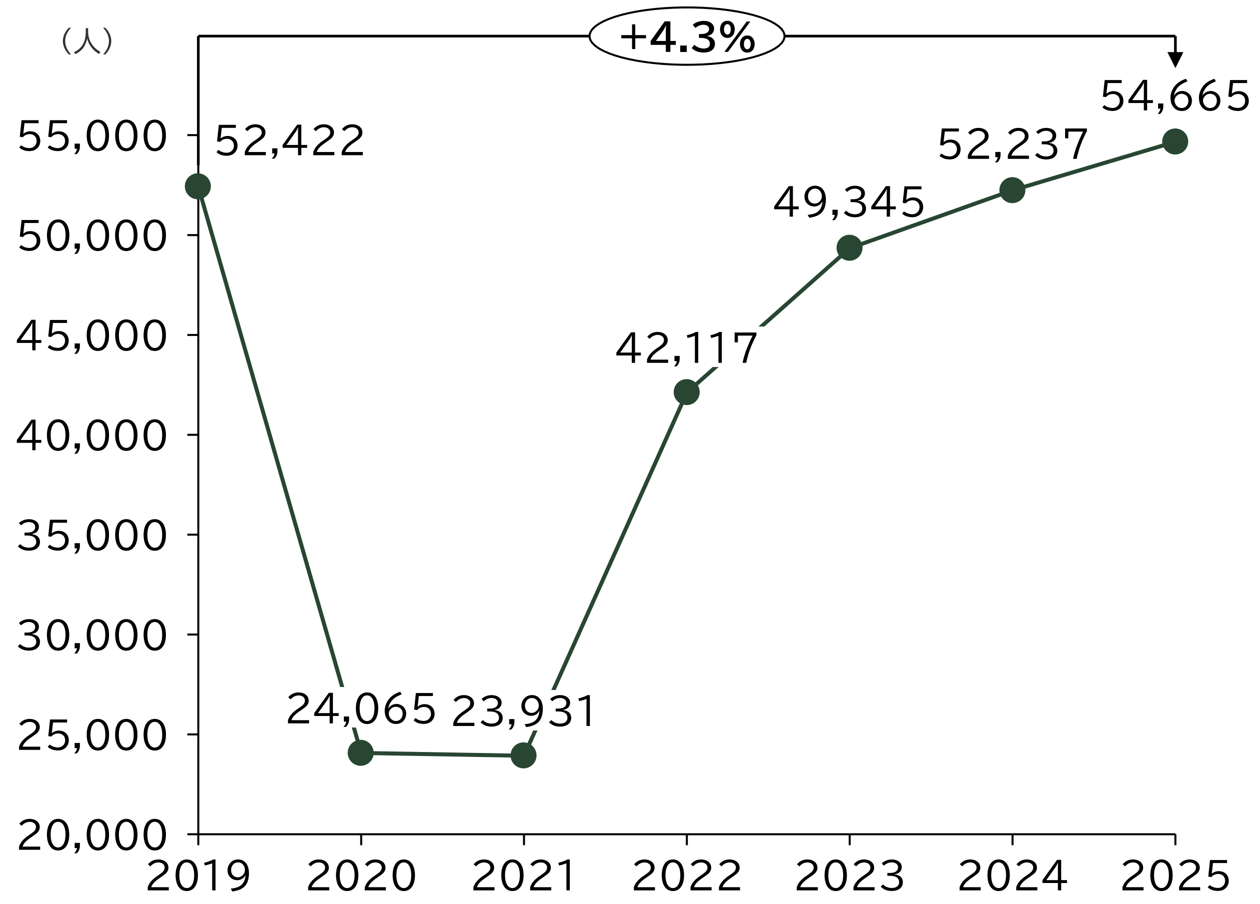


資料：出雲市観光動態調査（令和元年～令和6年度）より作成

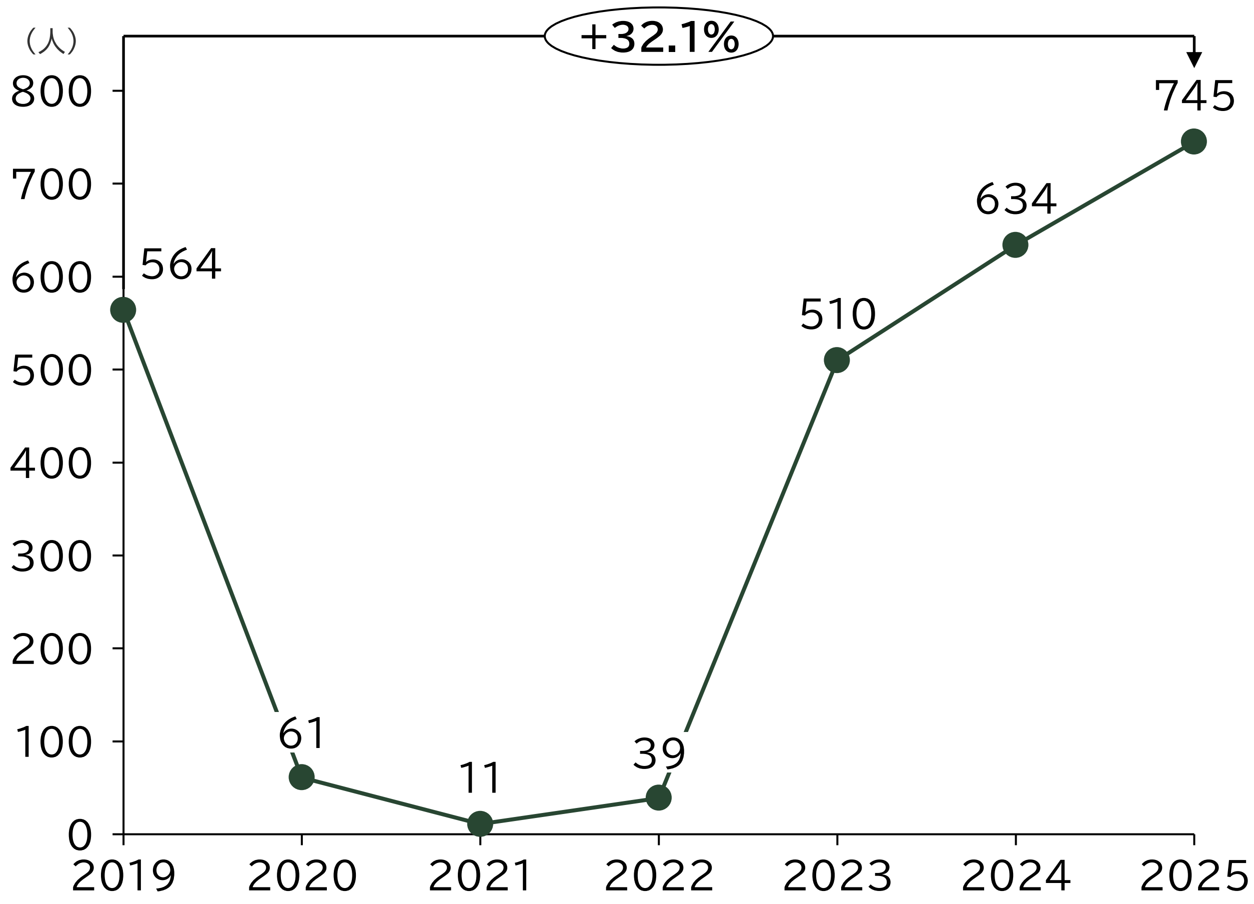
【隠岐地域】エリア別の観光客の動向

- 隠岐における観光客数の推移をみると、2025年は54,665人であり、コロナ禍前の水準まで回復してきている。今後はコロナ禍前をさらに上回っていく可能性が考えられる。
- 隠岐における外国人観光客数の推移をみると、2025年は745人であり、コロナ禍前の水準を超えて過去最多となった。

隠岐の観光客数の推移（日本人・外国人全体）



隠岐の観光客数の推移（外国人）

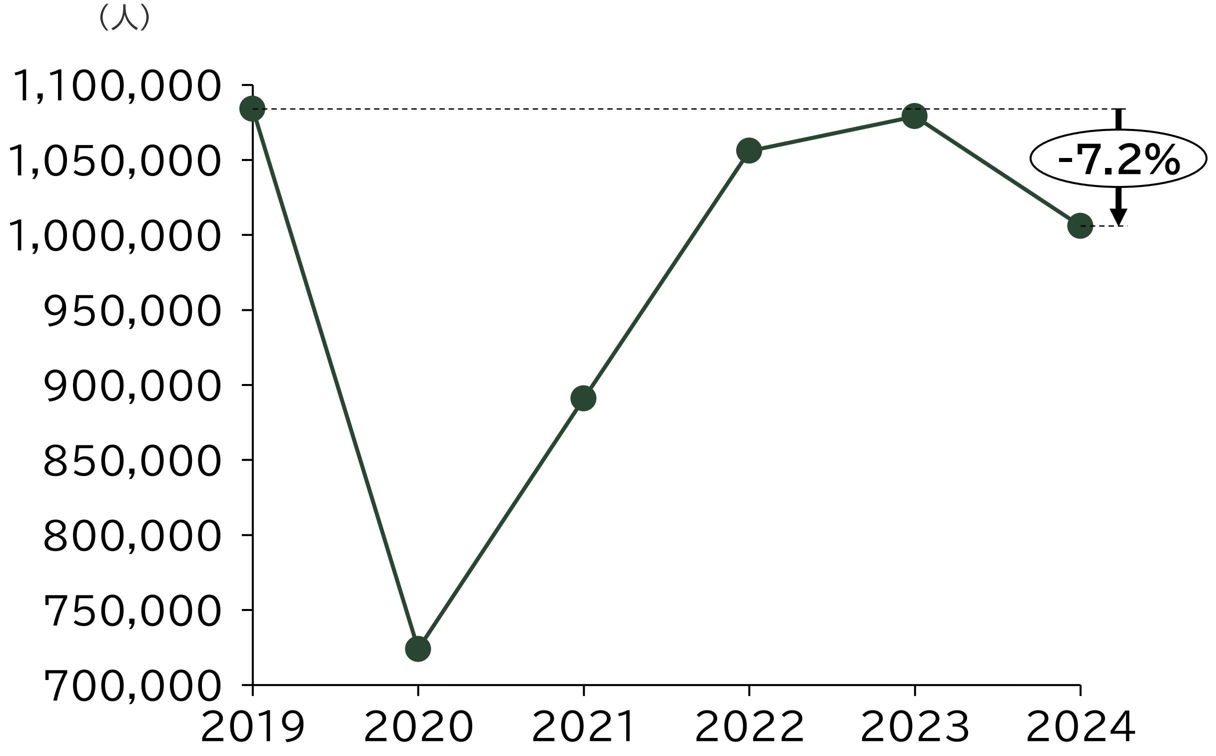


資料：隠岐観光データポータルサイトより作成

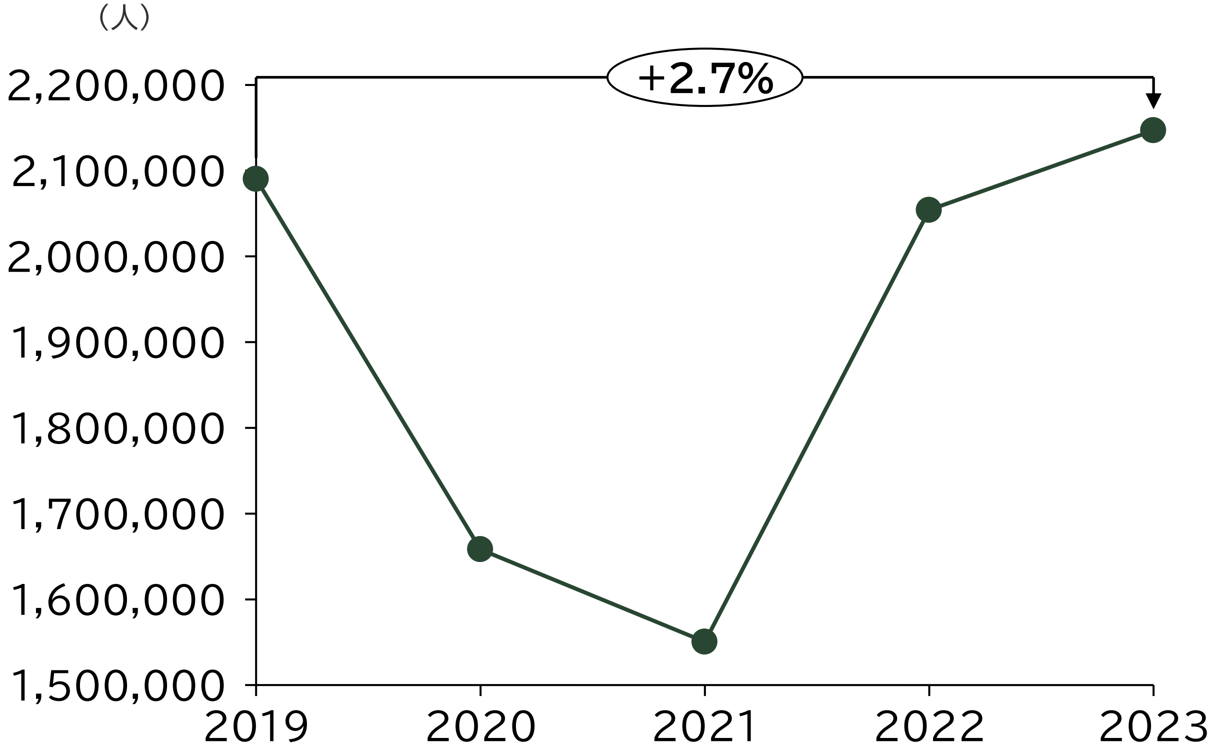
【大山・蒜山地域】エリア別の観光客の動向

- 大山周辺エリアの2024年の観光入込客数では、コロナ禍前の2019年の水準には戻っておらず、マイナス7.2%である。
- 蒜山周辺エリアの2023年の観光入込客数では、コロナ禍前の2019年の水準をわずかに超え、プラス2.7%である。

地域別観光入込客数の推移（大山周辺）



地域別観光入込客数の推移（蒜山周辺）



資料：令和6年観光客入込動態調査結果（鳥取県）、真庭地域（真庭市・新庄村）観光入込客数集計表・年間（2019 年～2023年）より作成

地域満足度の状況

- 株式会社JTBが独自調査をしている観光地域別のアンケート調査によると、大山隠岐国立公園に含まれる「蒜山高原」、「大山」、「出雲」、「隠岐」において、「まちの景観・雰囲気」や「地域の自然」や「地域での観光、活動、体験」等において、満足度が高い傾向にある。

使用したデータについて

■ <JTB地域パワーインデックス調査2025　調査概要>

【調査方法】インターネットによるアンケート調査
【調査対象】**全国に居住する15歳～79歳の男女⇒インバウンドは対象外**
【調査時期・サンプル数】
1. 居住者調査・旅行者調査･･･47,863サンプル
   ※47都道府県×性年代(10区分)×50サンプル（2025年2－4月実施）
2. 訪問者調査･･･38,780サンプル（2025年3－4月実施）

※居住者調査・旅行者調査の回答者のうち、過去3年以内に240地域のいずれかに訪問経験がある人から抽出

【主な調査項目】
・総合満足度、認知度、訪問経験、宿泊経験、再訪意向
・要素別満足度(地域の料理・食材、宿泊施設、温泉など)
・地域のイメージ
・思いもよらずよかったこと、他都道府県の人にお勧めしたいこと(自由回答)

■ JTB地域パワーインデックスでわかること

1. 訪問者からみた地域の相対的な評価がわかる
2. 訪問経験の有無の間に生じている、イメージギャップがわかる
3. 年代別など属性による満足度やイメージの違いがわかる
4. 季節性や、居住者と訪問者のイメージのギャップなどがわかる
5. 訪問意向への影響度から改善すべき点がわかる

地域内の観光における満足度(岡山県)

凡例：1位 2位 3位 4位 5位 6位 7位 8位 9位 10位　　単位:%

		n=	地域の料理・食材	宿泊施設	まちの景観・雰囲気	まちの歩きやすさ	まちのにぎやかさ	地域の静けさ	地域の物産（みやげ等）	地域の自然	地域での観光、活動、体験	地域の温泉	地元の人とのふれあい	地域内での交通の利便性
岡山県	蒜山高原	199	77%	38%	77%	55%	40%	71%	65%	88%	77%	35%	26%	39%
岡山県	倉敷	244	75%	35%	87%	94%	79%	64%	69%	72%	73%	27%	40%	55%
岡山県	岡山・吉備	211	67%	46%	78%	81%	68%	66%	59%	78%	69%	33%	38%	53%
岡山県	備中高梁	110	44%	40%	81%	63%	52%	62%	45%	74%	74%	27%	38%	40%
鳥取県	大山（鳥取県）	173	77%	42%	79%	57%	44%	69%	59%	86%	72%	43%	37%	43%
鳥取県	米子・皆生温泉	203	87%	73%	66%	47%	42%	65%	70%	75%	61%	78%	28%	36%
鳥取県	鳥取・鳥取砂丘	144	75%	56%	77%	71%	57%	64%	72%	80%	79%	61%	44%	41%
鳥取県	三朝温泉	143	84%	84%	88%	70%	51%	65%	60%	79%	69%	91%	41%	51%
島根県	出雲	194	73%	59%	83%	76%	61%	59%	61%	82%	79%	43%	35%	40%
島根県	松江・しんじ湖温泉	211	81%	67%	84%	76%	56%	66%	64%	87%	75%	67%	30%	43%
島根県	石見銀山	57	55%	48%	83%	77%	56%	77%	45%	79%	62%	50%	48%	46%
島根県	津和野	93	75%	39%	94%	92%	48%	77%	50%	77%	55%	38%	31%	42%
島根県	隠岐	29	85%	79%	80%	56%	29%	70%	77%	84%	88%	51%	48%	23%

資料:JTB地域パワーインデックス調査2025より作成

中国地方の空海港における国際線等の就航状況

- 中国・山陰地方の空港で国際線の拡充が加速している。広島や米子では上海・ソウル線のデイリー化が実現し、岡山ではLCCによる高雄線就航などネットワークが拡大、米子でも台北定期便が新設された。出雲・鳥取はチャーター便で実績を積み、定期便再開を目指している。
また、国内では広島・米子等での国際線デイリー化や新設に加え、2026年には関空発の新路線就航や鳥取・羽田便の継続も確定している。
- 一方で、海路において、境港では韓国定期航路の通年運航が実現し、大型クルーズ船の寄港も増加してきている。

中国地方における国際線の運航・再開状況（2024年以降）

1. 広島空港（HIJ）：主要路線のデイリー化とネットワーク拡充
- **上海線（中国東方航空）：** 2024年7月に週4便へ増便された後、2025年7月1日より「毎日運航（デイリー化）」が実現。
- **ハノイ線（ベトジェット）：** 2025年12月20日より週4便へ増便され、ベトナムとのアクセス強化。
- **台北線（チャイナエアライン）：** すでに毎日運航体制となっており、安定した需要を維持。

2. 岡山空港 （OKJ）：LCCの躍進と台湾路線の強化
- **高雄線（タイガーエア台湾）：** 2024年10月～2025年3月の冬季ダイヤで新規就航。
- **上海線（春秋航空）：** 2024年4月に再開（週4便）。※一方で中国東方航空の上海線は2025年末から一時運休するなど、航空会社によって動向が分かれている。
- **ソウル線（大韓航空）：** 2024年8月に週5便へ増便→2026年3月現在は週4便の安定運航。

3. 米子空港 （YNJ）：ソウル便のデイリー化と新路線の誕生
山陰エリアでは、韓国・台湾との結びつきが一段と強まっている。
- **ソウル線（エアソウル）：** 2023年10月に再開以降、2025年12月23日から「毎日運航」が開始。
- **台北線（タイガーエア台湾）：** 2025年5月29日より、**定期便（週2便）が新規就航。**
- **香港線（グレーターベイ航空）：** 2025年にかけてチャーター便やプログラムチャーターの運航実績を積み重ねており、定期便化への期待が高まりつつある。

4. 出雲・鳥取空港：チャーター便による実績作り
定期便の再開・就航に向け、チャーター便を中心とした動きが続いている。
- **出雲：** ベトナム（ハノイ・ホーチミン）とのチャーター便が定期的に計画されており、2026年ゴールデンウィークにも直行チャーター便が予定されている。
- **鳥取：** 2026年度を「国際チャーター便再開の年」と位置づけ、受入体制の再整備。

国内線定期便の運行状況、境港のクルーズ船等の状況

■国内線の定期便
- 関西国際空港：富山・米子を結ぶ新たな定期航空路線が2026年秋に就航
- 鳥取空港 （TTJ）：「羽田発着枠政策コンテスト」の結果、鳥取空港の5往復運航が2029年3月まで継続

■境港：国際定期航路
- **韓国・東海（トンへ）を結ぶ「イースタンドリーム号」運行継続：** 2025年に再開後初の通年運航を達成

■境港：クルーズ客船
- **2025年10月に「飛鳥Ⅲ」の初寄港：** 日本待望の新造客船が初寄港。式典では多くの市民に祝福された。
- **大型外国船の定着：** 「ダイヤモンド・プリンセス」や「クイーン・エリザベス」が複数回寄港。

■クルーズ船等の利用者数

暦年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
推計値（人）	215	3,670	2,300	3,556	4,445	0	32	96	2,080	1,680	2,410
前年比（%）		1,707	62.7	154.6	125	0	-	300	2,166.7	80.8	143.5
2019年比（%）	-	-	-	-	-	0	0.7	2.2	46.8	37.8	54.2

協議会関係機関において策定されている国内外の観光指針等

- 大山隠岐国立公園大山蒜山地域 利用の高付加価値化に向けた基本構想では、地域資源をつなげて周遊を加速するため、1つのストーリーとして地域の体験価値向上を目指している。
- 島根創生計画（第2期）では、①観光の振興：量から「質」への転換と高付加価値化、②地域資源を活かした産業の振興：食品・伝統工芸の競争力強化を観光指針として挙げている。

大山・蒜山エリア（鳥取・岡山）

大山隠岐国立公園大山蒜山地域 利用の高付加価値化に向けた基本構想

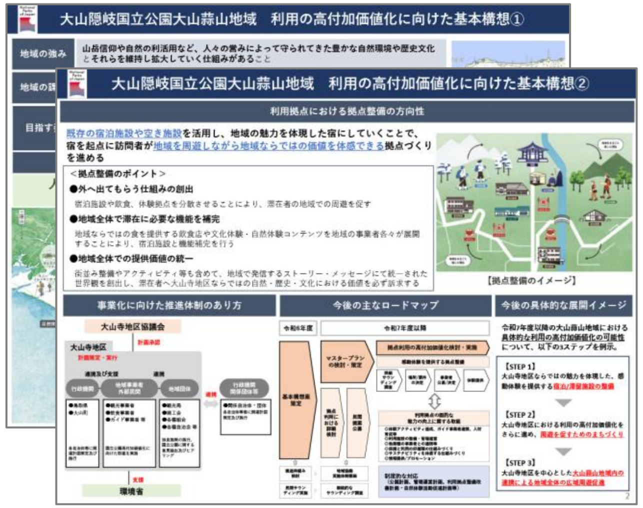
国立公園での感動体験を軸にした滞在型観光を推進するため、宿泊施設を中心とした拠点整備を進めている。2023年8月、大山隠岐国立公園（大山蒜山地域）が全国4つの「先端モデル事業」の一つに選ばれた。その結果、2024年10月に鳥取県の大山寺地区を利用拠点として選定。同地域の魅力を高め、高付加価値な利用を実現するための「基本構想」を新たに策定した。

地域の課題

地域内の様々な資源を地域における一連の魅力・体験へ落とし込む取組や体験の磨き上げが不足しており、地域一体での周遊がなされない

目指す姿

人々の営みによって守られてきた豊かな自然環境やその背景にある多様な歴史文化を、一つのストーリーのもとに場所や時期によって変化する様々な体験価値に落とし込み、来訪者の地域内の周遊を実現する



大山隠岐国立公園大山蒜山地域
利用の高付加価値化に向けた基本構想
（写真は概要版）

島根半島エリア

島根創生計画（令和7年度（2025年度）～令和11年度（2029年度））

島根県では、2025年度からの5年間を計画期間とする「第2期島根創生計画」を策定し、「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」という将来像を維持しつつ、これまでの取組をさらに前進することを打ち出している。

1. 観光の振興：量から「質」への転換と高付加価値化

①質の高い観光地域づくり：
歴史、自然、食などの資源を活用し、民間主導の商品造成やガイド育成を支援 。

②戦略的な情報発信：
「ご縁も、美肌も、しまねから。」を旗印に、SNSやメディアを駆使してターゲット別に魅力を届ける 。

③外国人誘客（インバウンド）：
関西・広島からの誘導や、空港等のゲートウェイ別対策、受入環境の多言語化などを推進

2.地域資源を活かした産業の振興：食品・伝統工芸の競争力強化

①食品産業の振興：
事業者のフェーズに合わせた段階的な支援を行い、第1次から第3次産業までを巻き込んだ経済循環を構築。

②伝統工芸の振興：
消費者ニーズに合わせた商品改良を支援し、魅力発信を強化することで競争力向上と後継者育成。

③外国人誘客（インバウンド）：
関西・広島からの誘導や、空港等のゲートウェイ別対策、受入環境の多言語化などを推進

資料：大山隠岐国立公園大山蒜山地域 利用の高付加価値化に向けた基本構想、島根創生計画（第2期）より作成

協議会関係機関において策定されている国内外の観光指針等

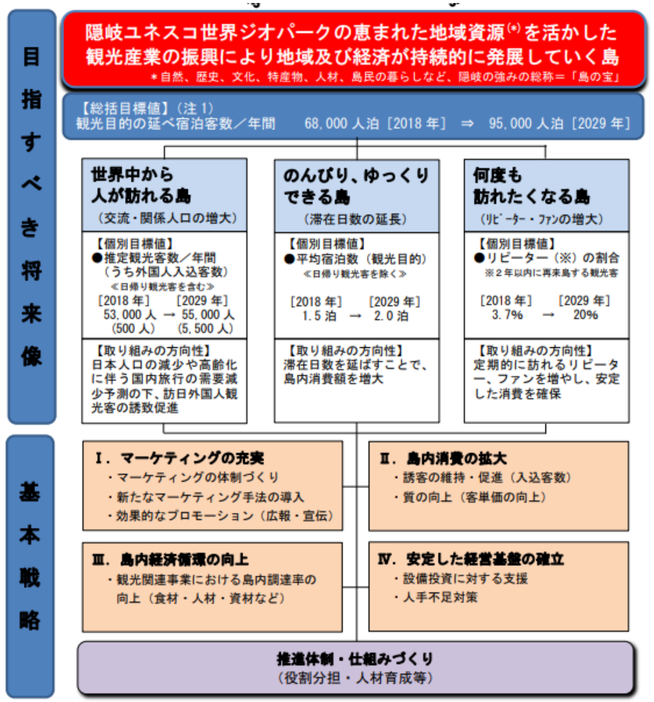
- 隠岐諸島の観光振興中長期ビジョン(2020年策定)は、人口減少に伴う地域経済の衰退を背景に、持続可能な地域社会の構築を目指す指針である 。交流・関係人口の増加、インバウンド誘致、滞在日数の延長、リピーター確保の3点を将来像に掲げ 、DMOの設立による推進体制の一本化やデータ活用の強化を図っている 。2029年までに観光目的の宿泊客数9.5万人泊達成を目標とし 、地域消費の拡大や経済循環の向上を通じて「稼げる島」の実現を目指す。

隠岐諸島エリア

隠岐諸島における今後の観光振興の中長期ビジョン

このビジョンは隠岐諸島4町村(海士町・西ノ島町・知夫村・隠岐の島町)の総合振興計画や総合戦略、各施策等との整合性が図られている隠岐諸島観光事業者が目指す共有の観光指針である。

全体像



隠岐諸島エリアの3つの将来像

1.世界中から人が訪れる島
(交流、関係人口を増やす)

2.のんびり、ゆっくりできる島
(滞在日数を延ばす)

・インバウンド誘致や滞在日数の延長
(1.5泊から2.0泊へ)

・2年以内に再来島するリピーターの割合
(全体の 3.7%から20%)

3.何度も訪れたくなる島
(リピーター・ファンを増やす)

基本戦略 / 具体的な取り組み

Ⅰ. マーケティングの充実

- **体制づくり:** 推進のための組織・基盤を整える
- **手法の検討:** 時代の変化に合わせた新たなアプローチを考える
- **プロモーション:** 効果的な情報発信・宣伝を実行する

Ⅱ. 島内消費の拡大

- **量的な維持・向上:**入込客数の維持、滞在日数の延長、リピーターの確保に取り組み、地域全体の消費基盤を底上げする。
- **消費単価の向上:**魅力あるサービスや商品の提供を通じて、観光客一人あたりの消費額アップを目指す。
- **着地整備の強化:**インバウンド誘客を促進するため、観光資源の磨き上げや受入環境の整備に重点的に取り組む。

Ⅲ. 島内経済循環の向上

- **島内調達率の向上:**観光客の消費を地域内で循環させ、経済波及効果を最大化させる仕組みを強化する。

Ⅳ. 安定した経営基盤の確立

- **事業者支援:**宿泊・観光事業者の設備老朽化への対応、旅行者ニーズに合わせた改善、および深刻な人手不足対策を支援する。

資料:隠岐諸島における今後の観光振興の中長期ビジョンより作成

協議会関係機関において策定されている国内外の観光指針等

- 島根県大田市は、人口減少に伴う地域経済の停滞を「観光振興」によって解決することを目指している。「共創観光都市」を将来像に掲げ、三瓶・大森・温泉津の3か所を重点エリアに設定。地域プレイヤーを核とした実行組織を形成し、戦略的なマーケティングや受入環境の整備に取り組んでいる。2026年度までに観光消費額50億円達成などを目標とし、市民が豊かに暮らし続けられる持続可能な観光まちづくりを推進する計画である。

三瓶山エリア（大田市新観光振興計画）

基本理念や方向性

基本理念（なぜ？「将来像」をめざすのか）

観光振興を通して市民が豊かで幸せに暮らし続けられるまちをつくる

めざす姿（将来像）どんな将来？

地域の独自性を磨き上げ、『共創観光都市』を目指す

めざす姿を実現するための行動指針 どうやって？

1. まちに住む人々の暮らしとの調和と、観光を通じた人々との交流により、生活文化をよりよく発展させることをめざします。
2. 経済と文化のバランスを探求することで、質の高い観光消費を促し、住民が豊かに幸せに暮らし続けていくための地域経済の活性化をめざします。
3. まちの魅力を誇りとし、地域の価値を高めあう人づくりをめざします。
4. 自然環境や文化を守り遺し、価値を次世代につなぎます。

エリア地図

コロナ禍以降の三瓶山エリア周辺の観光動向

三瓶北の原キャンプ場では、コロナ禍のアウトドアブームやソロキャンプの流行により、過去最高水準の利用が続く。利用形態は団体から個人旅行へと変化。客層はコロナ前後を問わず、島根県内や広島県からの来訪者が大半を占めており、三瓶自然館サヒメルや温泉、登山などがメインである。

基本方針	取り組み
①オール大田市で 観光地域づくりが できる体制づくり	**組織体制の構築**：個々の取組が相乗効果を発揮し、戦略的な観光地域づくりを推進できる組織づくりを行う。 **市民の意識醸成**：市民一人ひとりが計画を理解し、観光振興に「オール大田市」で取り組めるよう意識を高める。
②戦略的なマーケティング	**商品・サービスの造成**：市独自の資源を活かし、ターゲットやニーズに合わせた魅力的なサービスや商品を開発する。
③観光地域としてのブランディング	**戦略的プロモーション**：ターゲットに応じた効果的な情報発信を行い、戦略的なプロモーションを展開する。 **付加価値の創造とリピーター確保**：多彩な観光資源をもとに高い付加価値を創造し、長く過ごしたくなる魅力づくりによってリピーターを確保する。
④計画的な受入環境の整備	**受入環境の整備**：観光施設や道の駅等の適正管理や機能充実など、計画的な環境整備を検討する。
⑤広域連携とインバウンド観光の推進	**周遊性と賑わいの創出**：交通利便性の向上や歩いて楽しい空間作りにより、再訪したくなる環境づくりを推進する。

資料：大田市新観光振興計画2023-2026より作成

指標の方向性

- 本省が公表した「次期5年間の目標設定の考え方について」によると、3つの指標が新規に検討していくことになっており、大山隠岐国立公園でもそれに準じて、指標の追加を検討する。

次期取組方針における目標・指標（案）

環境省

次期取組方針における目標（案）	【2030年】<青字：2024年実績><赤字：2025年実績>		【2025年まで】<参考>現行の取組方針の目標	【2030年】次期観光立国推進基本計画（素案）の関連目標
国立公園における訪日外国人に関する指標				
1．訪日外国人利用者数	1,400万人 <844万人> <988万人（推計値・速報値）>	実績を踏まえ、更新	コロナ禍前同等値（667万人）	6,000万人 <3,687万人> <4,268万人(推計値)>
2．延べ宿泊者数	1,600万人泊 <619万人泊>	個別に設定	コロナ禍前同等値（国内・国外計3,744万人）	1.3億人泊（地方部延べ宿泊数）<5,086万人>
3．推奨意向【新】	90% <81%> <78%>		設定なし	－
4．来訪前の国立公園の認知割合【新】	80% <64%> <58%>		設定なし	－
5．国立公園を訪れた訪日外国人の平均消費額【新】	30万円 <27.0万円> <26.3万円（速報値）>		設定なし	25万円 <22.7万円> <22.9万円(速報値)>
国立公園における日本人に関する指標				
6．延べ宿泊者数	3,200万人泊 <2,932万人泊>	個別に設定	コロナ禍前同等値（国内・国外計3,744万人）	3.2億人泊（地方部延べ宿泊数）<3.1億人泊>
7．推奨意向【新】	80% <63%> <60%>		設定なし	－
8．来訪前の国立公園の認知割合【新】	80% <62%> <61%>		設定なし	－

- 地域経済循環に関する指標については引き続き検討
- 取組状況を把握するためのアウトプット指標を設ける
- 各公園ごとの地域別目標を設け、各ステップアッププログラムに位置付ける

2

- 推奨意向（訪日外国人・日本人）
- 来訪前の国立公園の認知割合（訪日外国人・日本人）
- 国立公園を訪れた訪日外国人の平均消費額（訪日外国人）

資料：次期5年間の目標設定の考え方についてより作成